

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 やむごとなし
①有名だ ②賢明だ ③高貴だ ④優雅だ
 - 2 うるはし
①かわいらしい ②当世風だ ③頼もしい ④端正だ
 - 3 あらまほし「形容詞」
①理想的だ ②華麗だ ③質素だ ④上品だ
 - 4 おもしろし
①遊び心がある ②大切だ ③きちんとしている ④興味がある
 - 5 はかなし
①もの悲しい ②頼りない ③無造作だ ④気の毒だ
- 「B」次の文の(訳)の「 」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。
- 6 取りたてて、はかばかし後見しなければ、事ある時は、なほ振りどころなく心細げなり。(源氏物語)
(訳) 格別に、「 」後ろ盾がないので、何かあらたまった事があるときは、やはり頼るあてもなく心細そうだ。
①縁のある ②大げさな ③しっかりした ④魅力のある
 - 7 熊谷、あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしもおぼえず。(平家物語)
(訳) 熊谷は、あまりに「 」で、どこに刀を突き立てたらよいかわからない。
①興ざめ ②かわいそう ③幼そう ④気がかり
 - 8 いとはけなき御ありさまなれば、乳母たち近くさぶらひけり。(源氏物語)
(訳) (女三の宮は) ひどく「 」ご様子なので、乳母たちがおそば近くに控えていた。
①心細い ②弱々しい ③みずばらしい ④幼い
 - 9 やさしう申したるものかな。(平家物語)
(訳) 「 」申したことよ。
①遠慮がちに ②簡単に ③けなげに ④穏やかに
 - 10 おのおの拝みて、ゆゆしく信おこしたり。(徒然草)
(訳) それぞれ拜んで、「 」信心をおこした。
①ふさわしく ②はなはだしく ③当然に ④突然に
 - 11 花びらの端に、をかしき匂ひこそ、心もとなうつきためれ。(枕草子)
(訳) (梨の花は) 花びらの端に、趣深い色つやが、「 」ほどついているようだ。
①不安な ②意外な ③おびたしい ④はつきりしない
 - 12 すべて、いとも知らぬ道の物語したる、かたはらいたく聞きにくし。(徒然草)
(訳) 何事でも、たいして知らない方面の話をしているのは、(はたで聞いていて) 「 」聞き苦しいものだ。
①心細く ②見苦しく ③おもしろくなく ④難しく
 - 13 寺をこそ、いとかしく造りたなれ。(源氏物語)
(訳) 寺を、実に「 」造ったそうだ。
①すばらしく ②大げさに ③趣深く ④こじんまりと
 - 14 その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。(伊勢物語)
(訳) その沢にかきつばたいがたいそう「 」咲いている。
①しんみりと ②滑稽に ③すばらしく ④かわいらしく
 - 15 はかばかしくも身の上をえ知り侍らず。(宇津保物語)
(訳) 「 」身の上を知ることができません。
①少しも ②特別に ③これ以上 ④はつきり

